

NANTO ルーム推薦図書 Talk Café 第6回 2023.6.30

第6回は経済学部岸野悦朗先生をお迎えして開催しました。今回の推薦図書は『思考の整理学』でした。

岸野先生は資料紹介前の導入として、高校までの授業と大学からの授業とそれぞれに必要な能力を比較しつつ、大学において自主的に考え行動することの重要性を、具体的な経験からくるエピソードを交えお話しくださいました。ではどのようにその「思考力」を鍛えるべきか、本書の目次である「グライダー」「朝飯前」「整理」「とにかく書いてみる」「垣根を越えて」…といったキーワードをピックアップしながら、各章の重要なポイントについて、緻密なスライドを用いて解説いただきました。



本書では、自力で飛ぶことのできない「グライダー型人間」と、自分の頭で考え、飛ぶことのできる「飛行機型人間」という比喻表現を用いて、自律的に思考・実践することの大切さが説かれています。大学の授業で必要になるのは自分から発信し考える力で、まさに「飛行機型人間」になっていくことが求められる、と先生のご所属である経済学科のディプロマポリシーなどを引用しつつ語られました。

また、「読書」という行為そのものについて、「能動的」で「主体的」、「想像力の発揮」される行為で、「深度ある作業」といった分析をされ、さまざまな能力が鍛えられるメリットの大きな作業であることを示していただきました。

トークが終了した後も、参加した教員・学生から質問が飛び出し、質疑応答も含めて大変学びの多いひとときとなりました。岸野先生は今回新入生に向けた推薦図書を選書してくださいましたが、本来は推薦されるものをただ受け身で読むばかりではなく、自分から積極的に資料に出会っていく・自分で考えて必要な資料を探していく姿勢も重要であることを、本書に記された内容に絡めながら、あらためて語ってくださいました。



■今回取り上げられた資料

思考の整理学 外山滋比古著. -- 筑摩書房, 1986.

081K||2425||v.0-84||A